アフリカ平和再建委員会

（Africa Reconciliation Committee：ARC JAPAN）

2008 年度事業報告書

（2008 年 4 月 1 日～2009 年 3 月 31 日）

今あらためて――なぜ「アフリカ」の「平和」なのか？

ARC は、1994 年のルワンダ大虐殺を発端に、NGO、研究者、学生、元・青年海外協力隊員といった市民が設立した組織である。その当時は虐殺に端を発する大量の難民への支援が「ルワンダ問題」として取り扱われていた。しかし ARC は、対症療法的な支援でなく、現地の市民社会との協力関係による復興と和解のためのプロジェクト作りを行ってきた。それは同時に彼らとの協働を通じ、いかにして国内で人々が動員され、国家による暴力が準備され実行されていくかを学び、私たち日本人が脆弱な平和というものを見つめなおす契機でもあった。

そして 2001 年の「9.11 同時多発テロ」以来、激変する世界の中で、アフリカの平和とは私たちとの平和と安全とも深く関わるようになった。なぜならばアフリカの貧困、紛争による無秩序は、国際テロ組織が活動拠点にしやすく、武器や天然資源の非合法取引やマネーロンダリングを可能にし、国際テロの温床となっているからである。現在のいわゆる「対テロ戦争」は、いわば暴力に対して暴力で抑え込むものにすぎない。ARC は、アフリカの平和再建を通じてグローバル・テロリズムの根本原因（Root Causes）の解決に迫り、誰もが共存できる世界を目指していきたい。

1. 海外事業

(1) ルワンダにおける事業――虐殺後の国民和解促進支援

a) 戦争寡婦・帰還難民の社会再定住のための就業支援（洋裁技術・バナナ工芸製作技術）

プロジェクトの主旨

1994 年の内戦の後、働き手として、また世帯主としての女性の収入創出は緊急課題となっている。足踏みミシンで、自宅やアトリエで行う仕立て業は、ルワンダでも一般的な仕事である。ドレスや学生服の受注による所得向上は、内戦後のルワンダの女性の自立に貢献しうるものである。同じような理由で、比較的短期で習得でき、設備投資も必要とせず、また、バナナ収穫後のバナナ樹皮という廃品利用で環境にも良いバナナ工芸品製作技術を通じて、生計補助のための機会提供としていくものである。

ARC は 2000 年以来、職業訓練活動を行ってきた。今後は、その技術を実際に生かして、生計を立てていく支援が必要とされている。

現地の状況

訓練活動自体はカウンターパートである現地 NGO の ARTCF が引き続き行っている。しかしながら指導員の給与、訓練資材、訓練所家賃などの面で資金的な援助が必要となっている。

今年度の実施経過

直接的な支援としては、ファンドが得られなかったため出来なかった。一方で、TICAD IV（第 4 回アフリカ開発会議）のプレ会合において、TICAD 市民社会フォーラムを通じて、ARTCF コーディネーターのジョセフィン・ムカヒギロ（Ms. Josephine Mukahigiro）氏を招聘することが出来、現地の意見を国際社会に反映させる取り組みを行うことができた。

b) **子ども支援（戦災孤児、エイズ孤児、子どもだけの世帯、ストリートチルドレン）**

プロジェクトの主旨

ARC は、「ルワンダ奨学基金」を設けて、孤児の就学支援を行ってきた。しかしこの取り組みを通じて、子ども達の置かれている状況の複雑さに直面した。日常の衣食住をはじめ、子どもだけの世帯における仕事や家事・育児の負担、児童売買春の犠牲、ストリートチルドレンにならざるを得ない生活状況などである。教育機会だけではなかなか改善されないこれらの問題に対し、「ルワンダ奨学基金」を、発展的に「ルワンダ子ども支援基金」と改称し、戦争の犠牲になった子ども達のさまざまな問題に対して、活用をしていくこととした。

今年度の実施経過

従来は奨学支援を、孤児院ギシンバ・メモリアル・センターの孤児に対して行ってきたが、今年度は海外の他の機関から奨学支援を受けられたため、ARC からは設備備品支援の一環として、マットレスを購入し、提供した。これについては、09 年 3 月に学生ボランティアスタッフとして早大 4 年の山崎卓郎が現地に赴き、同センターのソーシャルワーカーと調達と搬入を行った。

(2) **児童兵士問題――ストップ子ども兵士アクション**

現代紛争の象徴的存在――「子ども兵士」。この問題に向けて、「関心喚起」、「提言」、「直接支援」の 3 側面から、以下のような活動を行っていく。

a) **子ども兵士問題の日本における理解促進**

方針

- 国際キャンペーン－他の NGO・学術機関と協力のもと、子ども兵士問題への理解を促すめ、セミナー、ホームページ、写真展などを通じ、子ども兵士の日本国内での関心喚起・理解促進を行っていく。
- 講演活動
- 子ども兵士問題理解促進のブックレット、キャンペーンリーフレット発行

今年度の実施経過

今年度は、「関心喚起活動」の一環として、映画「見えない子どもたち（Invisible Children）」の自主上映拡大運動のチームを立ち上げることが出来た。9 月の ARC 主催上映会を皮切りに、自主上映会開催を促す広報を行い、日本の各地での上映運動が広がった。

b) **国際社会への提言**

方針

・ **国際会議への提言を行うために、話し合いをしていく。**

実施経過

今年度については、効果的に取り組むことは出来なかった。a)**による支持基盤の拡大が望まれる。**

c) **現地での子ども兵士支援活動への協力**

方針

・ **ウガンダ、シェラレオネ等の子ども兵士の社会復帰を支援している現地の活動への協力をすすめる。**

実施経過

2007 **年** 10 **月にウガンダ・グルに岡原功輔を派遣したのちのフォローアップがまだ出来ていない。ボランティアチームの中で、同地域の紛争問題をテーマとしている大学院生が次年度に現地調査を行う際に、状況調査を行っていくことを検討する。**

2. JICS 助成によるファンドレイジング／広報アドバイザーの委嘱

（財）国際協力システム（JICS**）の** NGO **助成により、「アフリカ平和再建委員会　財務体質改革プロジェクト」につき、**08 **年** 4 **月から** 09 **年** 3 **月まで、ファドレイジング／広報アドバイザーの委嘱を行った。委嘱者は、長島美紀氏（**08 **年** 4 **月～**11 **月）および大久保美希氏（**08 **年** 12 **月～**09 **年** 3 **月）。**

●実施の背景と目的

アフリカ平和再建委員会（ARC**）は設立以来、ルワンダ等におけるプロジェクト実施に際し、資金源の大半を助成金に依存してきた。しかしながら、第一に近年、メジャーな助成機関が助成事業を廃止・縮小していること（国際ボランティア貯金［縮小］、立正佼成会［廃止］、国際開発救援財団［廃止］など）により、他の財源を開拓する必要があることと、第二に** ARC **が現地支援活動と同時に、子ども兵士問題などの啓発活動、政策提言活動に取り組む必要性を認識していることから、プロジェクト支援中心の助成金とは異なる財源を開拓する必要があることに直面している。いわば量的および質的な、新たな財源の獲得により、組織と事業の持続的な運営体制を確立することが急務となっている。**

以上から、新たな資金源開拓に従事する能力を伴う人員を 1 **年間、本助成によって配置し、その者の成果によって継続的・安定的に収入を得られる人員体制を整え、助成期間終了後も、その収入によって専従者を維持できる体制を作ることを、本事業の目的とする。**

具体的な取組みとしては、①イベント企画による企業協賛、②主催セミナー企画による収益、③インターネットのアフィリエイト収益の展開、④クリック募金の協賛企業の発掘、⑤個人・法人会員の獲得、⑥物品販売事業の拡大、⑦メディアへのアピール、⑧講演会企画による広報、⑨中高大学への派遣講師の斡旋、⑩ボランティアスタッフの業務管理、⑪

その他事務局長が定める業務。

●実施経過報告

平成 20 年 4 月～6 月

業務委託者として長島美紀氏と契約。以後、本事業の業務に従事を開始。

ファンドレイジング（FR）の活動のために従事する作業を整理し、どのようなファンドレイジング活動を進めるのか方針を確定。ARC として、以下の業務を中心に FR を検討することを確認し、業務委託者はそれに従事することとした。

1． FR 重点事業

以下の事業について重点的に FR のターゲットとすることとした。

① バナナリーフカード販売事業
② ルワンダと日本の広島・長崎の平和構築交流事業
③ アフリカ平和再建委員会が日本語字幕付きの上映権を有する映画「Invisible Children」の上映と講演会の企画。

2． FR 方法のリサーチ

既存の FR の方法を見直し、かつインターネット等を通じた FR 方法についての研究を行い、ARC の業務に応用できるものを発掘する作業。

3． ボランティア・チームの組織化

ARC のボランティアの多くが大学生であることから、彼らとともに大学等でのイベントの企画運営を通じた組織化を検討していく。この間、業務委託者はボランティア・スタッフと週に一回の会合を持ち、仕事の進捗や状況を確認することに努めた。5 月にはアフリカンフェスタ 2008 に出展。業務委託者はボランティア・チームとともに展示と物販を指揮。

4． 寄付者とのコミュニケーション戦略の策定

既存の紙媒体、ネット広報等を見直していく。

平成 20 年 7 月～9 月

1． FR 重点事業関連

8 月に運営委員会にて、今後 3 カ年計画および寄付金拡大の事業方針を承認した。

NPO 法人「チャリティ・プラットフォーム」に対し、「ルワンダと日本の広島・長崎の平和構築交流事業」を申請。しかし採択には至らず。

ファンドレイジングの活動のために整理したファンドレイジング業務に関し、必要な作業を実施した。

① 現地コミュニティ・学校と日本のコミュニティや学校との交流・寄付推進事業
同事業に関しては、平和教育の交換プログラムを提案、事業所をまとめ、助成財団

に申請、現在結果待ちである。

② バナナリーフカード販売事業（既存のバナナリーフカードの販売と管理）
ボランティアの協力でリーフカードの販売を呼びかける文面を作成、現在チェック段階にある。

③ 「Invisible Children」上映会
ARC が上映権を持つ同作品の自主上映会の輪を広げ、FR のきっかけを拡大する戦略を計画。自主上映会を日本各地に促す運動を立ち上げるために 9 月 17 日にイベントを開催した。また、会員向けに地方での上映企画の実施を呼びかけるチラシを作成。

２． FR 方法のリサーチ関連

コンビニ決済、アフィリエイトの設置、クレジットカード決済などの研究に着手した。

３． ボランティア・チームの組織化関連

学生グループの組織化：現在ボランティア全員が学生であるものの、都合がなかなかつかないことから、参加が難しい状況にある。ただし、それぞれに担当を割り振ることで、責任感と充実感を持たせるよう努めている。

４． 寄付者とのコミュニケーション戦略策定関連

リーフレットの作成：ARC の新しいリーフレットを作成、業者発注の印刷を行った。

新しく募金箱のデザインを行った。イベントでの使用のほか、関係箇所に配置をできるようによびかけていくこととした。

平成 20 年 10 月～12 月

１． FR 重点事業関連

映画「Invisible Children」の自主上映会の拡大に重点をおき、展開してきた。

10 月 19 日　株式会社道祖神イベントでの上映
11 月 15 日　ユネスコ協会連盟での職員向け上映会
11 月 18 日　オール早稲田文化週間での上映
11 月 21 日　JICA 二本松 JOCV 隊員勉強会での上映
11 月 26 日　成蹊大学
12 月 4 日　北海道帯広高等学校
12 月 11 日　龍谷大学
12 月 16 日　成蹊大学国際交流会主催上映会
12 月 18 日　東京外語大
1 月 14 日　学習院大学
2 月 4 日　早稲田大学山西ゼミ

２．　ボランティア・チームの組織化関連

映画「Invisible Children」の自主上映会の拡大事業についてボランティア・チームの組織化が進む。

３．　FR 方法のリサーチ関連

インターネット上の募金サイト「イーココロ！」に登録申請を行う。

４．　寄付者とのコミュニケーション戦略の策定

関東周辺の国際交流協会および全国の JICA 事務所に新作リーフレットと自主上映会を促すチラシを送付。

※ 業務委託者は 12 月 1 日から長島美紀に代わり大久保美希が引き継ぐこととなった。

平成 21 年 1 月～3 月

１．　FR 方法のリサーチ関連

インターネット上の募金サイト「イーココロ！」の審査を通過し、同サイト上に掲載が開始された。

２．　FR 重点事業関連

映画「Invisible Children」の自主上映会の拡大に重点をおき、展開してきた。

自主上映に際して、背景となるウガンダ北部紛争と子ども兵士問題の解説のために開発したスライドの更新や、自主上映会とあわせた ARC スタッフの講演（講演収入増を図る）を促すための働きかけも行った。

また自主上映会を企画してくれそうな全国都道府県市区町村の国際交流協会、JICA 事務所、高校・大学などのリストを作成し、自主上映会を促すメール送信や、案内文送付などの作業を行った。

１．　支援対象事業実施の成果

① FR 重点事業関連

助成金、補助金依存体質から脱却し、NGO の原点に立ち返り個人・法人からの会費、寄付収入を上げるために、現行の事業の中から何点か、個人・法人に対してキャッチーなものを絞り込み、重点的にアピールする戦略を立てた。その結果、以下の 3 点を掲げた。

1.バナナリーフカード販売事業
2.ルワンダと日本の広島・長崎の平和構築交流事業
3.アフリカ平和再建委員会が日本語字幕付きの上映権を有する映画「Invisible Children」の上映と講演会の企画。

これらについて、②で報告するボランティア・チームの組織化もあわせて行うことで、持続性を担保することとした。今年度は上記のうち、3 に掲げた映画「Invisible Children」の自主上映会と講演を行うことで、関心層の拡大を図り、その場での寄付を募ることで寄付金額を向上する戦略を立てた。今年度は主催、自主上映を合わせ、11 か所での上映と講演を行った。今年度は大学等での上映が多く、学内での寄付行為は認められないケースが多かったが、ARC の存在と子ども兵士問題の周知をはかることはできた（この間、約 500 名の参加者があった）。参加者のメールアドレス情報を得ることによって、以後さらに ARC 関連の情報配信をする機会が拡大したことも評価しうる。

② ボランティア・チームの組織化関連

業務受託者が中心となり、上記①を推進する上でのボランティア・チームの組織化をすすめた。3 に掲げた映画「Invisible Children」の自主上映会と講演を行う活動に焦点を置き、明確な目的と活動内容をうったえた結果、この活動に携わるボランティア・スタッフが拡大し、リーダーを立てて自律的にこの活動を推進できる体制を整えることができたことは、今年度の大きな成果であると考える。

ボランティア数の変遷

7 月　1 名
8 月　2 名
9 月　3 名
10 月　3 名
11 月　5 名
12 月　5 名
1 月　6 名
2 月　7 名
3 月　8 名

③ FR 方法のリサーチ関連

従来の郵便振替口座による寄付金徴収システムに加え、他の方法のリサーチを業務受託者が行い、コンビニ決済、アフィリエイトの設置、クリック募金、クレジットカード決済についてリサーチを行った。

その結果、コンビニ決済、アフィリエイトの設置については、関連企業に問い合わせたところ、手数料の問題と寄付金の申し込みがコンビニ決済では難しいことから、導入を断念した。クリック募金については、支援企業と NGO とのマッチングを行うサイト

「dff.jp」に団体登録を行った。同サイトに掲載されている企業との連携を目指そうとしたが、同サイトにある企業はすでに特定の団体とクリック寄付に関する提携を結んでいるため、ARC を支援する企業を自力で発掘しなければならないことが明らかになり、現時点では断念することとした。

進展があったのはクレジットカード決済である。ユナイテッドピープル株式会社が運営するインターネット上の募金サイト「イーココロ！」に、ARC は同社の審査を経て「寄付対象団体」として登録され、クレジットカード決済の募金を行えるようになった。このことを HP へ掲載し、メールニュース等でも配信をした。即効果は出ていないが、FR のための重要なインフラのオプションが増えたことは成果として評価しうると考える。

④　寄付者とのコミュニケーション戦略の策定

リーフレットの作成：ARC の新しいリーフレットを作成、印刷。

募金箱：新しく募金箱のデザインを行った。イベントでの使用のほか、関係箇所に配置をできるようによびかけるために作成した。

HP：ウェブツリー改定案を業務受託者が作成した。部分的に改定を試み、今後もこの改定案をもとにウェブ構成を検討していくこととした。

その他、「ARC 会員の集い」などを催すというアイデアもあったが、実施には至らなかった。

２．　JICS の支援の成果

①　寄付金収入の変化

本申請事業の終了時の達成目標は、「使途制限のない寄付金収入金額２００万円達成（金額設定の根拠は、同業務に従事する人間のコストの２倍の収入を得られる体制確立を当面目指すため）」であり、達成度をはかる指標は「使途制限のない寄付金収入金額による」こととした。

前年度（2007 年度）と今年度（2008 年度）のルワンダ女性支援事業寄付、ルワンダ子ども支援事業寄付、子ども兵士キャンペーン事業寄付、個人会費、法人会費、無指定寄付、事業収入（物販）について比較検証をしてみる。

	ルワンダ女性支援寄付	ルワンダ子ども支援寄付	子ども兵士事業寄付	個人会費	法人会費	無指定寄付	事業収入
2007 年度	39,000	314,000	127,594	185,000	0	66,801	109,340
2008 年度	36,000	168,000	127,378	110,000	50,000	12,700	103,920

結論としては、本事業の実施による、目に見える急激な収入増という結果には至らなかった。

しかしながら、今後の ARC の FR 活動に有用となる「基盤」を構築できたことは、今年度の事業の実績として評価しうると考える。具体的には以下があげられる。

第一に個人寄付者拡大を念頭に置いて作成した団体リーフレットである。旧来のものはより詳細に説明することを意識しすぎたため、ややもすれば専門家向けの文字数も多いものであった。しかしながら個人寄付者に対しては、よりシンプルで明確に、しかも全事業をまんべんなく詰め込むよりは重点事業を中心に記載する方が効果があると考えた。ごく数例ではあるが、各都道府県の JICA や国際交流協会で配布してもらったリーフレットに内封した郵便振り込み振込み書で寄付した新規寄付者もいた。より広く目にとめてもらう機会を作ることで、今後の安定的な収入源を発掘しうると考える。

第二に、キャンペーン「ストップ子ども兵士アクション」が推進する映画「Invisible Children」自主上映会運動の進展があげられる。今年度に立ちあがったこの活動は、すでに試行錯誤を経ながら、安定的に持続しうる事業となった。映画という「入りやすい」契機を提示し、子ども兵問題とアフリカの紛争問題への新規の関心層の拡大を図ること自体、意義のあることであるが、さらに ARC という団体の周知、そして現地支援への寄付を募る場を拡大することで、FR の機会もまた拡大することが期待される。

第三にボランティア・チームの組織化が進んだことがあげられる。おもに自主上映会拡大について活動してきた。明確な活動内容と責任分担、メーリングリスト等を駆使した連絡体制、やりがい、学びの機会などがチーム構成員のモチベーションを高め、持続的な活動につながっている感がある。今後、バナナリーフ拡販のチームなど、分業化を進めることも検討している。

第四に、インターネット募金サイト「イーココロ！」への加入が認められたことがあげられる。これを橋頭保に、インターネットを通じた募金拡大の戦略を練る土壌ができたと考える。

② 今後の展望

今年度構築したシステムは維持しつつ、今年度行った FR についてのリサーチ結果を踏まえ、以下について取り組む。具体的には、(1)個人寄付を募るためには、多くの個人に ARC およびその事業を知ってもらう必要があるため、より広く人々の耳目に到達し、心情に訴える機会を拡大することと、(2)そのためのインターネットの諸機能、サービスやその効果について研究を行い、ARC の活動に応用していくことである。

1) 寄付者分析・寄付者メッセージの反映
寄付者の拡大を目指すうえで、寄付者がどのように ARC を知り、どのような思いで寄付をしたかなどについてリサーチし、その内容を広報媒体に反映させることで、読者の寄付意識を喚起する。

2) クリック募金協賛企業発掘
クリック募金の協賛企業を発掘し、dff.jp などに掲載を試みる。

3) バナナリーフカードのネット販売
ネット販売による商品売上拡大の研究を行う。

4) 個人寄付者へのアクセスを拡大するための商用ブログシステム（ココログ「地球のココロ」（http://chikyu-no-cocolo.cocolog-nifty.com/）など）のサービス利用の検討。

3. 国内事業

(1) 資金源獲得

a) 会員拡大による会費増収

b) 無指定寄付

団体のブランド戦略を受け、リーフレットを若干改定。クリック募金の運営団体に登録を行った。

c) 指定寄付

d) 物販売上

5 月のアフリカン・フェスタ 2008 に出展し、物品販売を行った。

e) 助成金

（財）日本国際協力システム（JICS）から、組織基盤強化の助成金を得た。今年度使用した（上述）。

(2) 団体周知

a) イベント参加により、知名度を上げ、参加、入会を促す取り組み。
5 月の「アフリカン・フェスタ 2008」に出展した。

b) パネル展示等の活動の周知活動。
ストップ子ども兵士アクションの関連で、「見えない子どもたち」自主上映会会場などで展示。

c) 各地で活動報告会・講演活動を行う。
主に、映画「見えない子どもたち」自主上映会の開催に際し、小峯事務局長が招聘講師として講演を行った。またウガンダ紛争のドキュメンタリー映画「ウォー・ダンス」上映会場でのトークライブでもトークゲストとして小峯事務局長が出席した。

(3) 政策提言・政策交流

a) 第 4 回東京アフリカ開発会議（TICAD IV）を受けて発足した「TICAD 市民フォーラム」への参加協力を行った。TN Net の結成に伴い、同ネットワークに参画し、政策提言の取りまとめに取り組んだ。TN Net では 10 月にアフリカ NGO を招いてのワークショップとシンポジウムを行い、それらへの協力を行った。

4. 組織運営

ファンドレイジング／広報アドバイザー委嘱が出来ることになった機会に、あらためて 3 カ年計画を立てた（別紙）。

5. 収支報告（2008 年 4 月 1 日～2009 年 3 月 31 日）

アフリカ平和再建委員会　2008 年度収支決算書

収入の部		支出の部	
ルワンダ女性支援		**ルワンダ女性支援**	
助成金	0	ルワンダ女性支援（助成）	0
寄付金	36,000	ルワンダ女性支援（自己）	0
ルワンダ子ども支援		**ルワンダ子ども支援**	
助成金	0	ルワンダ子ども支援（助成）	191,560
寄付金	168,000	ルワンダ子ども支援（自己）	0
子ども兵士事業		**子ども兵士事業**	
助成金	0	子ども兵士事業現地支援（助成）	0
寄付金	127,378	子ども兵士事業現地支援（自己）	0
		子ども兵士事業関心喚起（助成）	0
		子ども兵士事業関心喚起（自己）	12,400
		子ども兵士事業政策提言（助成）	0
		子ども兵士事業政策提言（自己）	0
国内活動助成金	0	**国内事業**	0
会費		**人件費**	960,000
個人	115,000	**賃借料**	360,000
団体	50,000	**通信費**	138,586
無指定寄付	14,700	**広報費**	31,800
事業収入		**文房具**	10,167
販売収入	103,920	**記録費**	2,960
講座収入	0	**機材費**	17,955
受託事業	0	**交通費**	0
利息	3,110	**物販関係**	25,866
		雑費	6,417
前年度繰り越し	1,906,318		
合計	2,524,426	合計	1,757,711
		翌年度繰越金	**766,715**

以上

別紙

ＡＲＣ　中長期戦略　０８－１０

事業面

(1)アフリカの紛争と平和の問題についての関心喚起（地域とイシュー）

現在のコンテンツ→地域：ルワンダ、イシュー：子ども兵士

今後の案→地域：スーダン（ダルフール）、コンゴ、ジンバブエ、、、

イシュー：気候変動、国際テロ、クラスター爆弾、国際刑事裁判所

方法→講義・講演受託、映画「見えない子供たち」上映、

教育事業（WAVOC「ルワンダ PJ」、広島長崎交流事業、主催スタツア（？）

(2)「ルワンダ」意味付けの転換

→「援助対象国」から「20 世紀の殺戮と平和の象徴」として。現地の「声」反映。

・REACH「償いの家」事業サポート

・Rwanda Cinema Center の映画

(3)アドボカシー

→新 TN Net 活動への協力→ODA 政策への関与

→平和構築に関連する国際的運動への参加（小型武器、クラスター爆弾、etc）

－アフリカ平和団体をつなげる（←アフリカ市民社会の近年の発展）

(4)現地支援は L-NGO の補助レベル→スタッフが定期的視察

（↑アドボカシー、関心喚起の活動のため）

ルワンダ　－子ども支援基金：継続

－ARTCF 女性支援：JVC に紹介

子ども兵士キャンペーン　－現地リハビリ施設等への支援

経営面

(1)助成金中心財源から一般寄付・企業協賛拡大⇒長島美紀 FR アドバイザー（JICS 助成）

・アフィリエイト、クリック募金、募金箱設置場所拡大、コンビニ決済、etc

・映画「見えない子供たち」地方上映とからめた募金

・団体イメージに対する寄付の拡大（ブランド？）

(2)運営委員らが現地に行く機会の拡大（Ex.増古さん）

(3)専従（半専従）スタッフ確保

(4)NPO 法人化

以上を踏まえて・・・

ＡＲＣ　2008 年度

事業

１．　ルワンダ子ども支援基金
ギシンバメモリアルセンターにマットレス新調の依頼←学費は今年は他機関から。

２．　子ども兵士キャンペーン―映画「Invisible Children」全国上映活動
関心喚起活動の一環
9/18 に東京を皮切り。自主上映会の輪を広げる。

３．　増古剛久ルワンダ現地調査
11 月頃（？）現地入り（10 日程度？）
女性支援対象者のその後と現在の訓練所の状況調査
子ども支援対象者と施設（ギシンバ）の状況調査＋マットレス寄贈
REACH「償いの家」事業視察

４．　広島長崎ルワンダ平和教育ＰＪ
チャリティプラットフォーム申請→完了
他資金源開拓

運営

１．　助成金中心財源から一般寄付・企業協賛拡大⇒柔軟に使用できる財源の拡大

２．　運営委員会の機能化

「アフリカ平和再建委員会」

↓

「アフリカ」の「平和再建」に取り組む「委員会」

から

「アフリカ」の「平和再建」に取り組む「委員」たちの集う「会」

へ

運営委員

大林稔（会長：京都）、首藤信彦（横浜）、小峯茂嗣（事務局長：東京）、斎藤隆祐（オランダ）、佐々木心（名古屋）、広瀬信一郎（ガーナ）、高美穂（イギリス）、増古剛久（ケニア）、入原稚奈（横浜）

□全員にかかわる事項

- 事業方針、予算の承認
- 運営委員の承認
- 声明文等を発する場合の承認　　以上はメールでもできる

□なかなか会えない海外・地方（東京本部から見て）委員の関与強化（案）

- 2 ヶ月に 1 回くらいのペースで、記事執筆（生活する国・地域でのアフリカ関連市民活動情報や、アフリカに絡んで研究していることなど）。
  →活動レポートおよび ARC ブログに掲載

- 企画提案システム（案）
  ・支援活動、調査活動、イベント、募金活動・・・などなど
  ・手続き
  事務局長あてに提案（人員、資金源の裏付け含む。団体ミッション、中長期方針と合致。）
  →　事務局長と検討　→　運営委員内で承認　→　実施

以上